

統合から1年

これまで

そして

これから

JOHOKU KANGO STATION
TOKYO NURSING ASSOCIATION

2023・9月

東京都看護協会立城北看護ステーション

CONTENTS

ごあいさつ	02
東京都看護協会立訪問看護ステーションの沿革	03
東京都看護協会立訪問看護ステーションの意義	04
一周年に寄せて	05
職員のメッセージ	07
城北・千駄木の思い出	09
私たちが創る5年後の城北	11
訪問看護ステーションの機能強化に向けた取り組み	13
千駄木訪問看護ステーションから	14
東京都看護協会立城北看護ステーションへ	
東京都看護協会立訪問看護ステーションの事業実績	15
千駄木訪問看護ステーションの思い出	17
機能強化に向けた検討委員会基本方針	18
編集後記	18



ごあいさつ

令和4年8月、公益社団法人東京都看護協会の訪問看護・居宅介護支援事業として、千駄木訪問看護ステーションと城北事業所を統合し、東京都看護協会立城北看護ステーションを新たに開設いたしました。

開設にあたりまして「東京都看護協会立訪問看護ステーションの機能強化にむけた検討委員会」委員の皆様はじめ、これまで当協会の訪問看護・居宅介護事業をご支援いただきましたすべての関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。

現在の保健医療福祉制度改革におきましては、協会立には機能強化型訪問看護ステーションとしての活動と東京都訪問看護教育ステーションとしての役割に加えて、公益社団法人が運営する看護ステーションとして地域全体の在宅療養の環境整備に資する新たな活動が求められます。そして、地域共生社会の実現が急務であるなか、看護ステーションという名称には、その役割への大きな期待がこめられています。

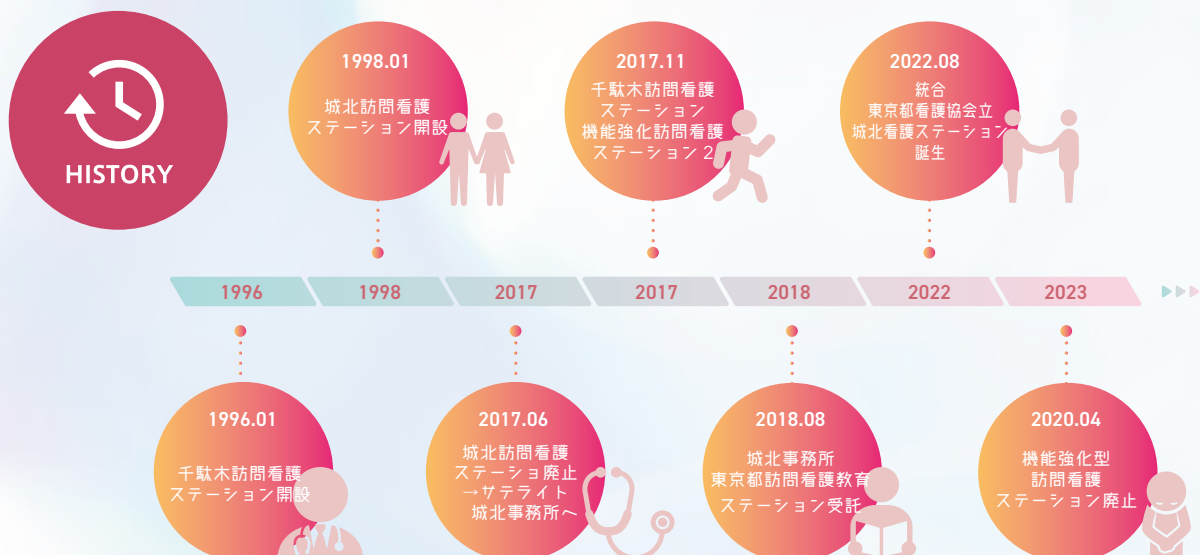
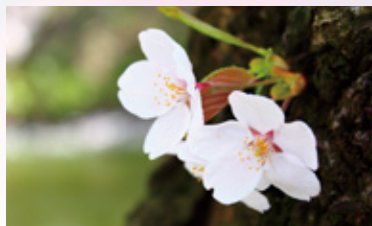
これからも地域で暮らす人々の声を聴きながら、社会の方向性を見据えた創造性あふれる先駆的な活動をめざしてまいりたいと存じます。

今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

公益社団法人東京都看護協会 会長 柳橋礼子

東京都看護協会立訪問看護ステーションの沿革

年 月	内 容
平成 8 年 1 月	千駄木訪問看護ステーション開設（文京区） 住所：東京都文京区千駄木 2-26-12 カーサビアンカ 102
平成 10 年 1 月	城北訪問看護ステーション開設（練馬区） 住所：東京都練馬区北町 8-37-22 第5相原ビル 202
平成 12 年 4 月	千駄木訪問看護ステーション居宅介護支援事業所開設 住所：東京都文京区千駄木 2-26-12 カーサビアンカ 102
平成 20 年 11 月	千駄木訪問看護ステーション移転 住所：東京都文京区向丘 1-7-17 マインハイム本郷 101
平成 29 年 6 月	【サテライト化】 城北訪問看護ステーション廃止 千駄木訪問看護ステーション城北事業所（サテライト）開設 住所：東京都練馬区北町 8-37-22 第5相原ビル 202
平成 29 年 11 月	千駄木訪問看護ステーション機能強化型管理療養費2算定開始
平成 30 年 8 月	東京都訪問看護教育ステーション受託（城北事業所）
令和 4 年 8 月	【統合】 千駄木訪問看護ステーション城北事業所廃止 千駄木訪問看護ステーション移転 東京都看護協会立城北看護ステーションに名称変更 千駄木訪問看護ステーション居宅介護支援事業所廃止 東京都看護協会立城北看護ステーション居宅介護支援事業所開設 住所：東京都練馬区北町 8-37-22 第5相原ビル 202 東京都看護協会立城北看護ステーション機能強化型管理療養費2算定廃止



東京都看護協会立の訪問看護ステーションの意義

東京都看護協会の訪問看護事業は、まず千駄木訪問看護ステーションを平成8年に開設し、訪問看護の創設期より地域活動を開始しました。また、全国の看護協会主体となって運営する都市型の訪問看護ステーションのビジネスモデルとして、当時から自転車で訪問するスタイルは、「地域医療の担い手」としてフットワークと効率がよく、「在宅看護はどうあるべきか」を模索する志の高い看護集団でした。

「千駄木」の特徴の1つ目に、都心で古くから住んでいる住民の方々も多く、早い時期から高齢化が進み、訪問看護だけでなく、居宅介護支援事業所としても認められたことです。

2つ目に東京大学付属病院が近いため、NICUのベビーから医療的ケアが24時間必要な児や、自宅で最後まで過ごしたいと希望される骨太の一人暮らしの高齢者や障がいのある方々などが存在する地域でした。

3つ目に周囲の訪問看護ステーションからは、協会立であることから「千駄木」にしかできないと一目置かれる存在でもありましたが、課題を抱えた利用者が多く、その対応に応じるために経営を抜きに活動し、勿論スタッフもベテランの看護師が揃っていて、どんなリクエストも熟していける力強い頼もしさがありました。

しかし時代の流れに伴い周囲には沢山の訪問看護ステーションや、病院の緩和ケア病棟などができて役割は少しずつ変化し、協会の訪問看護ステーションとしても「経営と看護

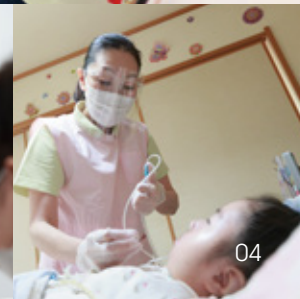
の質」の両輪をしっかりと担うためには「強化型のステーション」として生き残ることが得策と考え、千駄木と城北は統合しました。更に東京都看護協会立城北看護ステーションとし、「千駄木」の名は合併吸収されました。「千駄木」の訪問看護の志と実力

は学生実習や後輩に伝わり、受け継がれ、今後も更に協会立の訪問看護ステーションとしての存在意義を十分に発揮し発展させ世界に誇る「訪問看護の技術と智慧」発信して下さることを私は、期待しています。これまで支えて下さった竹内所長をはじめスタッフの皆様に心から感謝し御礼を申し上げます。ありがとうございました。



公益社団法人東京都看護協会 前会長
富山福祉短期大学

山元 恵子



FUNCTIONAL ENHANCEMENT OF VISITING NURSING STATIONS

東京都看護協会立の 訪問看護ステーションの機能強化に向けて

平成8年(1996)1月に東京都看護協会立の訪問看護ステーションとして文京区に開設した「千駄木訪問看護ステーション」が、令和4年(2022)7月末に閉所となりました。城北事業所の地に機能を統合するという発展的な閉所です。訪問看護は昭和58年(1983)、前年の老人保健法のもと退院患者の訪問看護に医療保険の診療報酬が認められ、その後高齢化など需要の高まりを背景に老人保健法が改正され、平成4年(1992)4月から訪問看護ステーションの訪問看護が可能となりました。

東京都看護協会(以下当協会)では「千駄木訪問看護ステーション」、および2年後には「城北訪問看護ステーション」(平成29年6月千駄木訪問看護ステーションの城北事業所としてサテライト化)を開設し運営してきました。両ステーション開設当時、都内の訪問看護ステーションの事業所数は50事業所程度でしたが、現在は1,539事業所となっていて、小児、精神、リハビリなど様々な分野に特化し、特徴をもった訪問看護ステーションも多くなっています。私が当協会の理事に就任したのは平成29年6月で、すでに両ステーションは開設から20年以上、地域で継続し訪問看護を提供してきた実績がありました。そしてそこで働く看護師及び多職種の皆様は、訪問看護への熱意と情熱をもって働いており、病院での看護しか知らなかった私は大変刺激を受けました。

当協会は、新会館移転にあたり立ち上げた「将来構想委員会」で、多くの事業について検討する中、訪問看護ステーション事業についても検討しました。さらに「東京都看護協会立訪問看護ステーションの機能強化に向けた検討委員会」を設置し、現状と課題を明確にし、運営の在り方や機能強化を進めるため再検討を行いました。結果、方針の一つを受け、規模のメリットを活かした安定的ステーション運営を行うために、城北事業所の地に機能を統合し、「東京都看護協会立城北看護ステーション」の新呼称のもと、令和4年(2022)8月再スタートを切りました。両ステーション開設当初から事業運営とサービスの提供に尽力いただいた、所長はじめ多くの職員の皆様、またスムーズな統合に奮励努力いただいたすべての皆さまに感謝申し上げます。

少子高齢化の進展により今後在宅ニーズはさらに高まり、担い手である訪問看護のニーズも益々高まります。介護保険法や地域包括ケアシステムなど国の政策誘導からも明らかです。安定的な事業所運営により、利用者の様々な生活課題や医療ニーズに対応でき、自己のスキルアップに留まらず、危機管理、医療安全に配慮できる職員の人材育成をはかり、東京都看護協会立の訪問看護ステーションとして更なる発展を期待します。

公益社団法人東京都看護協会 前専務理事 渡邊 千香子

地域共生社会における 看護ステーションとして期待します

訪問看護の歴史は、1983年に訪問看護に診療報酬が認められ、1991年に老人保健法の改正による老人訪問看護制度が発足し、1994年には健康保険法等の改正による全世代の在宅療養者への訪問看護が提供可能となり、2000年には介護保険法施行に伴う訪問看護が始まりました。

千駄木訪問看護ステーションは、まだ都内に100か所前後しかなかった1996年に開設しました。これまで看護協会立のステーションとして期待を背負い、在宅療養者を支える役割を果たしてきました。

2022年8月に東京都看護協会立城北看護ステーションとして新たなスタートを切り、職員一同、在宅療養者の生活の質を上げるための専門的な看護の実践力の向上や、人材を育成のため支援の質の見える化を促進する取り組み等についても、これまで以上に邁

進しているところです。

日本は既に超高齢化社会ですが、2040年にはピークを迎えます。さらに地域では、相互扶助や家族同士の助け合いなど、生活の場面上における支えあいの基盤が脆弱になっています。

人々が共に暮らすことのできる地域共生社会の実現に向けて、地域での医療・看護・介護福祉等総合的な支援体制の構築や、人々が自身の健康維持や慢性疾患の悪化予防、最期まで住み慣れた地域で暮らすことのできる看護支援がますます重要になります。

東京都看護協会立城北看護ステーションが、地域における総合的な支援体制に寄与し、時代の要請に応える看護ステーションとして、ますます活躍されることを期待いたします。

公益社団法人東京都看護協会 常務理事 佐川 きよみ

MESSAGE FROM COMMITTEE

「東京都看護協会立城北看護ステーション」の 1周年に寄せて

「東京都看護協会立城北看護ステーション」として、新たなご出発から1年を迎えられましたことを感慨深く思います。私は千駄木訪問看護ステーションと城北事業所統合の結論に至るまで、当該検討会に微力ながら参加させていただきました。

会議では種々の実績データをもとに両事業所のあり方が検討され、現スタッフや利用者の皆様にもご配慮されたうえで、統合を選択されたこと、また、統合されたあと軌道に乗せるための日々のご尽力に心から敬意を表します。東京都では高齢者人口が増加し続けて、医療・介護双方のニーズを有する85歳以上高齢者が急増するため、訪問看護等の看護系サービスはますます必要とされます。一方で少子化が加速化し、今後、生産年齢人口が減少する中で、訪問看護等に従事する人材をどう確保し定着させるかが大きな課題となってきます。これからの訪問看護ステーションは大規模化が望ましい解決策と考えます。

スケールメリットを活用することで、公益社団法人東京都看護協会のビジョンに沿って、今まで以上に教育機能を高め、地域住民の健康相談やフレイル予防・認知症予防などの健康ニーズに応

えることができるでしょう。さらに災害や感染症まん延時の拠点型訪問看護ステーションとしての活動など期待が大きく膨らみます。「看護ステーション」と改名された趣旨がそこにもあると思います。

本業の訪問看護では、退院時の医療機関との連携、24時間対応体制で重症度の高い在宅療養者・医療的ケア児等の支援、在宅看取り、リハビリテーション看護の充実が求められます。

2040年をめどに地域共生社会の構築が始まっておりますが、サービス提供者や行政、利用者・家族もすべての人々が地域で自分の持てる力を発揮して助け合いながら共に生き、WELL-BEINGの実現を目指しています。貴看護ステーションが「地域で暮らす、すべての人々の健康を支える」をモットーに、地域住民に親しまれ頼りにされる看護拠点となって、人々とのつながりの輪が広がることを大変嬉しく思います。「東京都看護協会立城北看護ステーション」のますますのご発展を祈念いたします。

公益財団法人日本訪問看護財団 常務理事

佐藤 美穂子

東京都看護協会立 城北看護ステーション設立に寄せて

東京都看護協会では平成8年に千駄木訪問看護ステーションを、平成10年には城北訪問看護ステーションが設立されましたが、両ステーションとも発足時から先駆的な存在として協会立のステーションの在り方を考えつつ、様々な取り組みを始めておられました。他ではなかなか受けられない困難事例、感染症、重度障がいの方々などの訪問を積極的に受け入れていました。

また、毎日の忙しい訪問業務、ご利用者・ご家族のケアの傍ら、地域の方々との交流会、イベントなどを企画・開催されるとともに、認知症パートナーの育成、実践報告や研究発表などにも取り組まれていました。私は別事業の関係で参加したエイズ財団の研究発表会で、千駄木訪問看護ステーションから、当時は不治の病と恐れられていたエイズ患者の訪問看護の実践報告があり、内容は大変心に残るものでした。さらに時間外には、「よさこいソーラン」をステーションの皆さんで練習され、イベントで素晴らしい踊りを発表されたことがあり、皆さんのチームワークにも頭が下がる思いでした。平成26年、東京都看護協会が公益法人認定のための資料

作成に当たっていた時、協会立訪問看護ステーションの公益性が大きく問われました。しかし、これまでのステーションの諸々の活動内容が、公益性を説明できるものとなりました。

時の流れとともに、訪問看護ステーションが、地域共生社会へどのように寄与できるのかも課題とされています。協会立のステーションとしては、機能強化型ステーションとしての活動と東京都教育ステーションとしての役割は必須であると考えられています。歴史を紡がれた両ステーションメンバーの力を2拠点に分散するのではなく、城北看護ステーション1拠点に集中されたことにより、ますます皆様の力が結集され発展していけることと存じます。

城北地域での先導的役割を担う訪問看護ステーションとして、将来を見据えながら皆さんで夢をもってご活躍いただけるようにとお祈りしています。

一般社団法人東京都訪問看護ステーション協会

廣岡 幹子

STAFF MESSAGE

千駄木に思いを馳せ、 城北の発展を願う

平成8年に千駄木訪問看護ステーションは文京区に、平成10年に城北訪問看護ステーションは練馬区に開設されました。私は平成25年から令和5年にかけて、両ステーションを行き来しながら仕事をさせて頂きました。

千駄木エリアは坂道が多く電動自転車でも大変でしたが、下町の風情溢れる街を走るのとはとても楽しいものでした。思い出されるのはターミナル期の利用者様です。若くして旅立ったシングルマザーの方や家族で多くの悩みを抱えている方などに触れ、病が引き起こす悲哀とそれでも踏ん張って生きていく利用者様や家族の姿に、人の強さを知りました。城北エリアは緑や畑が多く野菜の無人販売所もあり、のどかな風景があります。光が丘公園を自転車で駆け抜ける時、忙しくても心がリセットされました。

城北では精神障害を含め様々な障害を持つ利用者様と出会いました。「初めまして」の言葉を交わす時、もちろんそれぞれ違いがありますが、疾患や障害を持ちながらも決して平穏ではない環

境で生きて来られ、（一般的に健常者よりも）苦勞が多いであろう道のりを歩んで来たことに尊敬の念を抱きます。訪問看護の仕事では、様々な人生を送ってきた方、特に決して平坦ではない人生を歩んで来られた方の最期の場面に関わることがあります。

私はそのような時、利用者様から『色々あった人生だったけど、最後にこの人たちに会えて良かった、自分の人生悪くなかった』と思われる存在でありたいと思っています。

昨今、死は医療化されていますから、人生の終盤に差し掛かった頃、医療従事者との出会いが増えることが多々あるでしょう。今の自分は、人の人生の最期に出会うにふさわしい人間だろうか。いやいや、私においては、まだまだなのです。令和4年に二つのステーションは一つになり「東京都看護協会立城北看護ステーション」と名前を改めパワーアップしましたが、城北看護ステーションの皆様はどんな自分でありたいですか。

これからも、いちステーションとして、いち医療従事者として、いち人間として、どうか学ぶことを止めず、一生進化成長を続けられますように。

東京都看護協会立城北看護ステーション

所長 竹内 里絵子

千駄木訪問看護ステーションの思い出

転職を機にナースプラザを訪れた際「老舗のステーションでスタッフは優しく、研修体制がばっちりなお勧めの訪問看護ステーションがあるよ」と笑顔で紹介してくださったのが千駄木訪問看護ステーションでした。

文京区で働くことになり、感心したことは高齢の利用者様のご両親が大学を卒業されている方々が多かったことでした。また東大前駅周辺には、大型スーパーは少ないものの、昔から文京区にお住まいの利用者様は「御用聞き」を利用し果物やお花を自宅に届けてもらっていました。

白山駅周辺はつつじやアジサイが開花する時期になるとお祭りが開催され、遠方からも人々が集まりにぎやかになります。自転車でお花が咲き誇る街なかを走る時はいつも清々しい気持ちになったことを思い出します。

さあ、これからは練馬地域のことをもっともっと探求し、たくさん楽しみたいと思います。

訪問看護師 山田 博子

機能強化・統合を 支える事務の立場から

私は城北看護ステーションで事務を行っています。平成26年に入職し早いもので勤続10年目となりました。雨の日も雪の日も嵐の日だって利用者さんのために出かけていく訪問看護師さんの背中に日々頭が下がる気持ちです。そんな職員の皆さんが安心して働ける環境作りも訪問看護ステーションの事務職として大切な役割の一つと考えています。さて令和4年8月に東京都看護協会が運営する2つのステーションが統合し「東京都看護協

会立城北看護ステーション」として新しくリニューアルを迎えました。統合にあたっては、新しい職員を迎えるための配置換え、各種備品の整備調達、各機関への届出、看板設置、不動産屋への対応等、通常業務にプラスして目まぐるしく過ぎていきましたが、統合後は、職員が増えたことにより新しい可能性が広がり、徐々に利用者数も増えています。

これから東京都看護協会立城北看護ステーションのチームが一丸となり、地域に選ばれる利用者さんに人気のステーションになっていけるよう私も努力していきたいです。

事務 水倉 操

ケアマネジャーは 文京区から練馬区へ

ケアマネジャーとして東京都看護協会立城北看護ステーションへ入職し7年目を迎えました。

入職当初は看護ステーションの目まぐるしい日々には圧倒され、「私に務まるのかしら」と戸惑うこともありましたが、生活上様々な困難や不安を抱えている方々が安心して地域で暮らせるよう、福祉職として求められる役割を考えながらこれまで努め

てまいりました。地域の皆さまに支えられた、歴史ある千駄木訪問看護ステーションを閉じることは私たち職員にとっても大変苦しい選択でした。

また、ご利用者さまや関係機関には大変ご迷惑をお掛けいたしました。これまでに築いた知識や経験を生かし、新たな地でもご利用者さまに寄り添ったサービスが提供できるようにこれからも精進いたします。

主任介護支援専門員 平澤 可愛

これからの城北 リハビリの立場から

千駄木事業所には、地域柄おもむきのあるお寺が多く東京大学の広い敷地、根津神社の緑多い境内など、自転車移動しながら街の歴史を感じるエリアでした。ご利用者様宅も大きなお屋敷やお寺など自宅でのリハビリも普段あまり経験できないような広さで行うことも珍しくなく驚きの連続でした。2022年8月に千駄木事業所が城北事業所に統合するための準備が始まりました。

大変な事務所の引っ越し作業はスタッフ同士で協力しながら乗り切りました。練馬区での活動が

暑い夏に本格的に始まりました。夏の暑さは文京区を上回り、光が丘公園の深緑は文京区の並木よりもはるかに涼しく感じられました。

他の事業所へ営業活動を行い、ご利用者様や関係各所には「リハビリ通信」という情報提供を行い、地域に根ざせるよう活動を行っています。100歳を超える方が古いマンションに独居で過ごし、桜の季節に車椅子でお花見へ出かけいつも緊張している表情がやっと緩んだ気がしました。独りでは療養が困難な方でも誰かしら傍にいた文京区とは違い、身体のリハビリのみならず心にも手を差し伸べる必要が多くある地域と感じながら訪問活動を続けています。

理学療法士 築瀬 孝之

城北看護 ステーション

JOHOKU KANGO STATION



春は桜が咲きほころ
光が丘公園。



美味しいパン屋、夏はお祭り
団地の中の商店街。

東武東上線

下赤塚

下赤塚駅商店街

職員の送別会では
美味しいカレーをテイクアウト。

光が丘公園

緑多く地域の方々の
憩いの場です。

城北看護
ステーション

練馬駐屯地

時折ヘリコプターが飛んできます。
桜の季節は見事な並木。

光が丘区民センター

地域の方が集う場所。
勉強会の会場として度々利用。

氷川台

東京メトロ有楽町線

春日町

一戸建てが多く狭く細い路地が
入り組みます。
バッティングセンターの音が
響きます。

畑

辛口の練馬大根や地域の
小学校給食に利用される
野菜を栽培しています。

西武池袋線

有楽町線
練馬大根戸線

練馬



光が丘公園で遊ぶ
子供達。



夏はお祭りも開催される
自衛隊練馬駐屯地



谷中界隈には
猫が多いのだ。

田畑米店

昼食のおにぎり・惣菜
おいしくてスタッフの皆が
大好きだった。

谷中商店街

自転車で通り抜けたり
お弁当を買ったり・・・



根津神社

利用者さんと一緒に
お花見をした思い出。



東大前

東大の銀杏並木

屋外リハで利用者さんと
一緒に歩いた思い出。



千駄木訪問看護 ステーション

白山

本駒込

東京メトロ南北線

東京メトロ千代田線

張崎三田線



チャリンコハウス

自転車メンテで
お世話になりました。



千駄木訪問看護 ステーション

SENDAGI HOUMON KANGO STATION

地域の皆さま、ご利用者様から、
今より更に「城北に!」と
選ばれるようになっている。

事務・横川

5年後も“城北さんなら
安心してお願いができる”
言ってもらえるように頑張りま

ケアマネ・平澤

地域に根ざし、
利用者さんやご家族・病院からも
選んでいただける
看護ステーションとなっている。

理学療法士・築瀬

地域の皆様に
今よりももっともっと
信頼されるステーション

訪問看護師・佐々木

放課後デイが立ち上がり、
子供のエネルギーを感じる
ステーションになっている。

訪問看護師・濱田

がんを患っても
住み慣れた場所で安心して
治療や療養を
受けられる街・城北

訪問看護・吉岡

地域から
「城北さんに任せておけば安心」と
信頼され、地域に開かれた
ステーションになっている

訪問看護師/ケアマネ・中川

私たち
5年後

教育ステーションとしての
役割も充実し地域から選ば
利用者様からも
人気のステーションになって

事務・水倉

とす。

地域医療の一端を担いつつ
「共に生きる」看護を!

訪問看護師・辰巳

訪問看護の
楽しさは人それぞれ。
みんなが楽しく、
元気に働けるステーション

訪問看護師・鈴木

職員みんなが笑顔で
生き生きと末永く働き続けられる
ステーション

所長・竹内

私の精神、肉体ともに
成長させてくれる
闘いの場そしてホーム!

理学療法士・長石

が創る の城北

城北さんに訪問を頼んで良かった、
来てくれて安心すると感じて頂ける
事業所になる。

訪問看護師・岩田

「とりあえず城北に聞いてみよう」と
信頼を置いてもらえるステーション

作業療法士・阿部

地域の方々が
いつでも安心して
健康相談に来て下さるような
ステーションに
成長していきたい。

訪問看護師・山田

利用者・地域から愛され、
楽しく働ける看護ステーション

訪問看護師・中西

の
られる
いる!

01 訪問看護ステーションの 機能強化に向けた取り組み

東京都看護協会立
城北看護ステーション
発足までの軌跡

令和2年7月の東京都看護協会将来構想委員会における将来構想「知の拠点」として貢献するための取り組みを受け、訪問看護ステーションの運営のあり方を根本的かつ発展的に検討し、人々の健康な生活の実現に寄与するために、令和3年12月「東京都看護協会立訪問看護ステーションの機能強化に向けた検討委員会」を設置しました。委員会は、当会専務理事を委員長として、外部有識者・訪問看護ステーションの職員を含む6名で構成され、令和4年4月まで3回実施され、訪問看護ステーションの現状や課題、あるべき姿などが討議されました。

訪問看護ステーションの課題として、職員数や事業規模において、メインステーションとサテライトが逆転していることや職員数の減少により事業規模・内容を広げられていないことがあげられました。

一方、現場の声を機能強化の方向性に取り入れていくために、訪問看護ステーション職員による意見交換を行い、それぞれの思いを表出し、専門職としてやりたいことや今後取り組んでいきたいことなどを話し合いました。

東京都看護協会立の訪問看護ステーションの強みを活かすために、方向性として「大規模化を図る」「他のステーションとの差別化」「働き方改革」により、「知の拠点」として教育ステーション機能をさらに充実させ、地域包括ケアの中心的な役割を担う体制を整えることをあげ、検討委員会として基本方針を策定しました。

機能強化のために、千駄木訪問看護ステーションを練馬区に移転し、城北事業所と統合、居宅介護支援事業所も開設し、名称を「東京都看護協会立城北看護ステーション」と改め、令和4年8月1日に新たなあゆみを始めました。

訪問看護ステーションの統合が決まり、千駄木訪問看護ステーション、城北事業所それぞれの所長、ケアマネジャー、理学療法士が集まって座談会を行いました。（看護とうきょう 136 号）訪問看護の機能強化に向けて、訪問看護師として目指すところ、理学療法士が地域でできること、ケアマネジャーが大事にしているところなどを話すことができました。

公益社団法人看護協会 事業部長 家崎芳恵

城北訪問看護ステーション



意見交換

千駄木訪問看護ステーション



座談会

02

千駄木訪問看護ステーションから 東京都看護協会立城北看護ステーションへ

東京都看護協会立
城北看護ステーション
発足までの軌跡

利用者移行

事業所が練馬区に移転するということは、契約している70名の利用者さんを他の訪問看護ステーションにお願いすることになります。一人一人に丁寧に説明をし、ご意向を聞きながら新たな訪問看護ステーションを探し、引き継ぎをしました。「新しいところでも頑張っ
てね」という言葉に励まされつつも「成長を見守りたかった」「最期まで見てあげたかった」と職員の思いはとても複雑でつらい場面もありました。無事すべての利用者さんを移行して安堵の思いと協力して下さったすべてのの方々に感謝の思いでいっぱいになりました。

引越し

利用者さんの移行と並行して、引越しの準備も進めていきました。千駄木訪問看護ステーションの歴史を感じながら、城北に持って行く物と廃棄する物を分別していきました。廃棄するには忍びない物もたくさんありました。引越し荷物に囲まれながら、事務仕事をする環境も普通では経験できない風景です。7月25日(月)引越しの当日、何もなくなった千駄木訪問看護ステーションは信じられないほど広いお部屋でした。

東京都看護協会立城北看護ステーション誕生

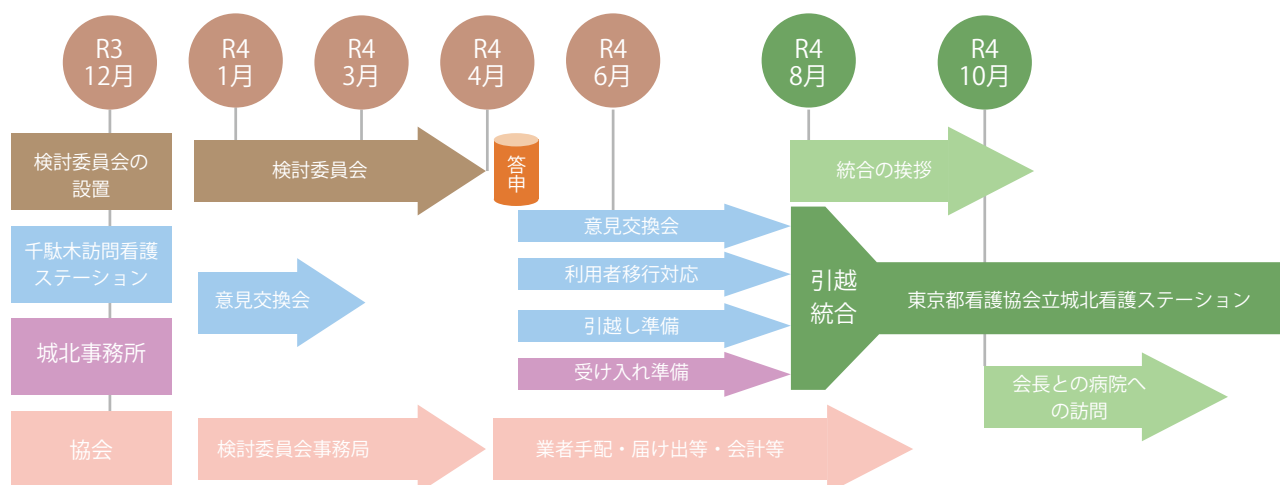
平成8年1月に開設した千駄木訪問看護ステーションは、令和4年8月1日に東京都看護協会立城北看護ステーションとなり、職員数は城北事業所の12人から総勢17人の事業所になりました。統合により退職する

職員が多くでるのではないかと懸念がありましたが、退職は2名にとどまり、多くの職員は新たな地で「どんなことができるのか」という希望と期待を持って統合を受け止めてくれたのだと思います。

事業所の規模が大きくなったからといって、利用者が急に増えるわけではなく、職員は地域包括支援センターへの挨拶回りをし、会長と病院への訪問をする等新規利用者の獲得に向けた動きをしました。これまでの城北事業所と大きく違うのは、居宅介護支援事業所を開設したことで、「ケアマネ・訪問看護・リハビリ」セットでという依頼が増え、介護保険利用者やがん末期の利用者が増えたことです。医療依存度が高い利用者の在宅ケアのマネジメントの中核を担い、多職種と協働することで、療養生活を創造できることが協会立の訪問看護ステーションの強みです。統合から半年が過ぎ、新規利用者は急激に増えてきています。残念なことに令和5年3月に機能強化型訪問看護管理療養費2の算定要件を満たせず、機能強化訪問看護ステーションはいったん中止しましたが、これからも地域関係者が「安心して依頼できる」事業所であり、職員も「安心して働き続けられる」職場であり、地域住民のより身近な存在である「看護ステーション」を目指していきたいと思っています。

公益社団法人看護協会 事業部長 家崎芳恵

機能強化に向けた取り組みから新たなあゆみへ

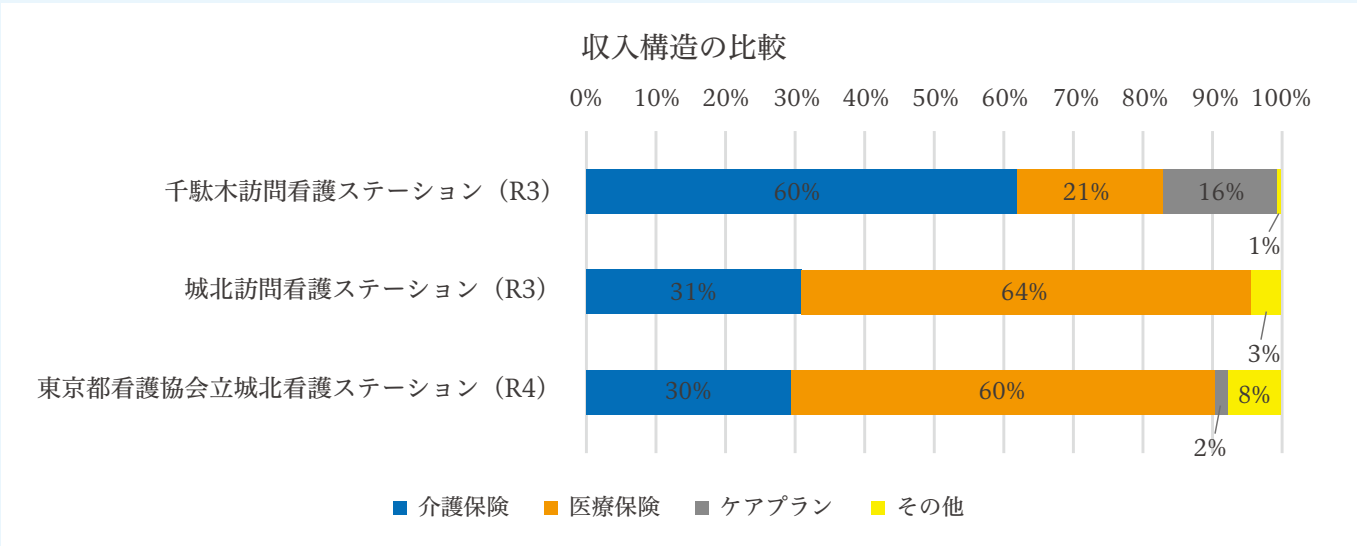
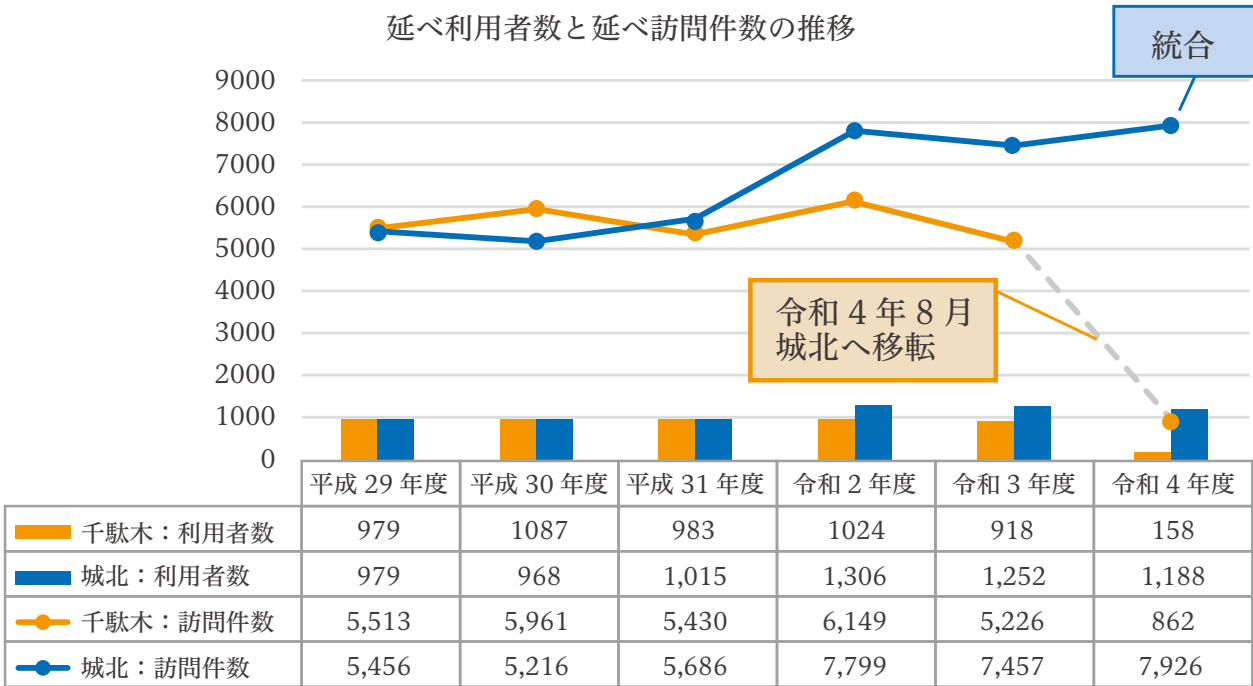


東京都看護協会立訪問看護ステーションの事業実績

訪問看護事業

千駄木訪問看護ステーションは、職員数の減少から令和2年度以降利用者数を増やすことができず、事業規模を縮小していた。また、サテライトの城北事業所は利用者数100名程度で推移している。千駄木訪問看護ステーションは、居宅介護支援事業所を併設していることもあり、介護保険利用者が多く、城北事業所は、精神疾患が多く医療保険利用者が多いといったそれぞれの特徴を持っていた。統合後の東京都看護協会立城北看護ステーションは、収入構造では医療保険が6割を占めている。

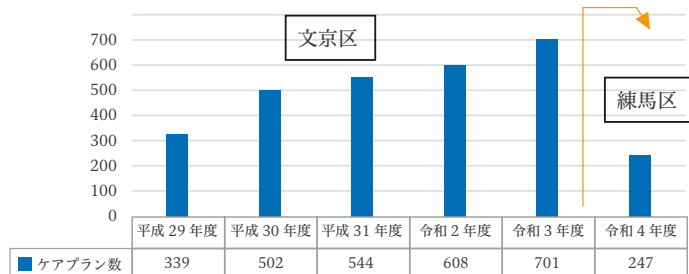
介護保険の収入が増えていない要因として、短時間訪問が多いことも考えられる。その他の収入として、練馬区や板橋区からのレスパイト事業や東京都訪問看護教育ステーション事業などがある。新規利用者は37名／年、在宅看取りは7名／年であった。統合後半年が経過し、徐々にがん末期の依頼がふえ、月1～2件の在宅看取りを行っている。新型コロナウイルス感染症への対応は、行政からの委託はなかったが、診療報酬を利用して5名の対応を行った。職員の感染は数名あったが、感染対策を行い、クラスター発生はなく事業の縮小はせずに対応することができた。



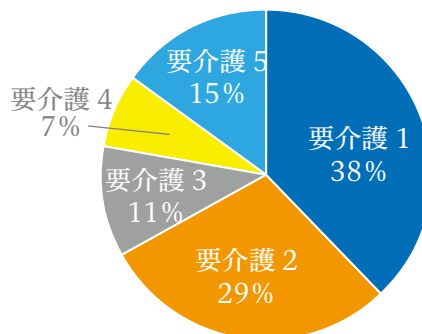
東京都看護協会立訪問看護ステーションの事業実績

居宅介護支援事業

ケアプラン数の推移



利用者の介護度 (R4.3 時点) n=55



千駄木訪問看護ステーションの居宅介護支援事業は順調に件数を伸ばしていたが、訪問看護の人員不足で、ケアマネジャーと訪問看護・リハビリをセットで依頼したいという要望に応えることができないこともあった。令和4年3月の利用者の介護度は介護度1～3は67%、介護度3～5の重度者が33%である。令和4年8月以降は、練馬区の指定を受け、新規事業所としての事業運営となった。月7件の新規獲得を目指して、練馬区のケアマネジャーの連絡会に参加し、横のつながりや地域包括支援センターとの関係作りを行った。がん末期の依頼も多く、訪問看護と一緒にケアに当たれるものの入院や死亡で終了者も多く、事務業務などの効率をはかることは、今後の課題として取り組んでいくことを考えている。

東京都訪問看護教育ステーション事業

城北事業所では、平成30年8月に東京都から訪問看護教育ステーションの委託を受け、統合後東京都看護協会立城北看護ステーションで引き続き取り組んでいる。令和2年度～4年度の相互研修は新型コロナウイルス感染症のため実施しなかった。また、令和4年度は介護医療連携研修を受託し、ヘルパーの研修受け入れをし、訪問看護師もヘルパーの事業所で研修を行った。実績は右記の通りである。

		平成30年度 (8月-)	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
同行訪問(人)	人数(人)	3人	10人	12人	4人	14人
	日数(日)	4日	35.5日	44日	4.5日	22.5日
相互研修(人)	光が丘病院	6人	7人			
	順天堂練馬病院	0人	6人			
	療育センター	0人	7人			
	陽和病院	0人	6人			
勉強会	回数(回)	2回	5回	2回	5回	5回
	人数(人)	57人	128人	52人	178人	160人
介護医療連携研修	ヘルパー					8人
	看護師					4人
相談件数(人)		0件	4件	4件	2件	4件

その他の事業

- ※遺族会: 令和5年2月に「遺族会」を実施した。在宅で看取りを行った後の遺族へのグリーフケアは、これまでもずっと行いたいと考えていたことであった。今回は配偶者を亡くされた方を対象としたが、今後も対象を広げて行っていく予定である。また、グリーフケアについて地域で取り組めるように地域での勉強会も行った。
- ※リハビリ通信: 令和5年4月からリハビリ通信「転ばぬ先の杖通信」を発刊している。高齢者のフレイル予防や介護方法などを発信している。
- ※満足度調査: 毎年契約利用者に対して満足度調査を行い、ホームページでも公開している。利用者の小さな声にも耳を傾け、事業計画に活かしていきたい。

MESSAGE FROM THE PERSON I AM GRATEFUL TO

東京都看護協会立城北 看護ステーションの設立に寄せて

千駄木訪問看護ステーションに事務員として入ったのは2000年(平成12年)のことでした。私は医療請求も介護請求も未経験な上、パソコンもおぼつかない状態でしたが、ちょうど介護保険が始まった年で、介護保険制度は今とは比べものにならないほどシンプルでしたので、システム入力をきちんとすれば、請求書を作るのはさほど難しくはありませんでした。医療保険は複雑で難しく閉口しましたが、利用者が少なかったのも、なんとか前月と見比べて同じように請求書を作りました。とても不安だったのは介護保険請求書をまとめてインターネットで送る伝送でした。メールの送受信がやっと出来る程度の私には、1回で何十枚もの請求書を送る実感がつかめず、マニュアル通りに操作しても毎月不安で仕方なかったです。

この20年でネット環境も介護保険もずいぶん複雑で難解になり、ついてくることに必死でした。今思えば介護保険創成期はまだまだのんびりした時代でした。

雨貝 安代



訪問看護の思い出 ～こんなこともありました～

東京都看護協会立のステーション誕生の翌年、看護をじっくり考え実践できる環境と思い入職。入職早々、運動中の肉離れでギブス装着。訪問看護基礎研修受講のお陰で、暫くは自転車訪問を免れましたが、呆れたスタート。

酷暑の訪問日、「こんにちは、涼しい気持ちいいですね」と言いながら訪問先に入室。「その板の間で少し涼みなさい」と利用者。嬉しさのあまり座り込み数分間涼を堪能。利用者さんの心遣いに感謝!

また、月ごとにケーキ等スタッフのお誕生日会、夏はソーメンを作り皆で昼食したり、自分達が楽しむことも沢山ありました。思い返せば、楽しかったことや失敗したこと等たくさんありますが、やっぱり看護が好き。城北看護ステーションの皆さんのこれからのエールを送ります。

小嶋 奈々子

東京都看護協会立城北 看護ステーションの設立に寄せて

訪問看護経験3年を迎えた時に新たなステップアップを目指し、東京都看護協会立の千駄木訪問看護ステーションに入職しました。そこで最初にした印象は年齢層が高いということです。経験十年以上のベテランの先輩の中で、ちょうど自信をつけてきた頃の私は馴染めるのかなと感じていました。入職して3ヶ月程度でその不安はいつの間にか消え、スタッフは楽しい仕事仲間になっていました。そして訪問看護がより一層楽しくなっていたのです。何人か自分の担当利用者さんを抱え訪問に行っていると、まるで親戚の家に立ち寄るかのような楽しい気分で訪問していました。

しばらくしてそれがなぜなのかはつきり私には理解できませんでした。それはこのステーションが長期にわたり、地域や利用者家族から信頼を得ていたからこそ快く受け入れられていたのだと。現在、千駄木訪問看護ステーションは東京都看護協会立城北看護ステーションとして新たにパワーアップして事業展開しています。これからますます必要になってくる在宅医療の分野で城北看護ステーションが在宅ケアの中核を担っていくことを期待しております。

倉重 真美子

「さようなら」 千駄木訪問看護ステーション

千駄木訪問看護ステーションの閉所の知らせに、寂しさが込み上げている。開設の平成8年、当時都内には45カ所だった訪問看護ステーションは、現在では1500カ所を越えている。閉所の判断は、公益社団法人看護協会が、地域医療で果たすべき役割からの判断だと理解しつつ、それでもやはり寂しい。私にとっては、43年の看護師生活の最後の6年を過ごした千駄木は、看護する喜びに満ち満ちた日々だった。看護に意欲と情熱を持つ仲間たちとの出会いは、人生の変えがたい宝物となった。

日本語の「さようなら」は「左様なら」「そうあらねばならぬなら」の意であると何かの本に書いてあった。心を込めて「さようなら千駄木訪問看護ステーション」。

柴野 恭子

機能強化に向けた検討委員会 基本方針

<基本方針1>

現在サテライトとなっている城北事業所1箇所を設置場所及び機能を統合し、規模のメリットを活かした安定的なステーション運営を行う。

<基本方針2>

経営基盤の強化を図るため、機能強化型訪問看護ステーションIの算定を目指し、重症度の高い利用者・重症児の受入数やターミナルケアの実施等に積極的に取り組んでいく。

<基本方針3>

東京都訪問看護教育ステーションとしての機能を今後も十全に発揮し、地域包括ケアシステムを支える訪問看護師の育成に貢献する。

<基本方針4>

感染症対策や災害時対応など、協会立訪問看護ステーションの強みを明確にし、地域における存在意義を高めるとともに、「知の拠点」としての魅力を積極的にPRしていく。

<基本方針5>

地域自治体、医療機関、地域包括支援センターや地域住民との協働や多職種連携を進め、地域に必要とされるステーションとしての地位を確立する。

<基本方針6>

職員がその力を十分に発揮できるよう、キャリアアップを支援する仕組みや働きやすい職場環境を整える。

編集後記

東京都看護協会が運営する訪問看護ステーションが「東京都看護協会立城北看護ステーション」としてリニューアルオープンして一年が経過し、今回このような記念誌を発行することができました。

私にとって訪問看護師・ケアマネージャーとして初めての職場である千駄木訪問看護ステーションの閉鎖はとても寂しいことですが、統合にあたり職員及び外部委員の方々が一丸となり準備を進めこのような新たな一步を踏み出すことができたことは本当にうれしい限りです。そしてスタッフ全員で今までのステーションの歴史や統合の経緯を振り返るとともに今後に向けての決意を新たにすることができました。

今までお世話になった地域の方々、利用者様、統合にあたりお世話になった皆様、そしてこの冊子をまとめるにあたりご協力いただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

皆様の期待に応えられるよう努力を続け、今後も前進していく私たちを引き続き応援していただけると幸いです。

編集係

中川 洋子
築瀬 孝之
家崎 芳恵

